

後期始業式での「校長講話」(前編)です。

10月2日(火)、後期の始業式を体育館で行いました。10月1日は、本校の「創立記念日」ですので、2日の実施となりました。その始業式での「校長講話」の全文を今号と次号(第388号)で掲載します。タイトルは「美術館のすすめ」です。

◆10月2日の始業式での「校長講話」—前編— ◆ タイトル:「美術館のすすめ」

- みなさん、おはようございます。本日の講話は、約**13分**間です。
- 皆さんは、月旅行計画を発表するなど、今話題の**前澤友作さん**を知っていますか。ファッション通販サイト**ZOZOTOWN**の社長ですね。前澤友作さんは、現代アートのコレクターとしても有名です。特に、昨年5月に、**ジャン=ミシェル・バスキア**の絵画を約**123億円**で購入して大変話題となりました。どんな絵かは、あとで「前澤友作 バスキア」で検索してみてください。おそらく、多くの方が何でバスキアの絵に123億円もと思ったでしょう。でも、私は前澤社長の行動が少し理解できます。
- ここに2冊の本があります。1冊目は**奥村高明氏**による『**エグゼクティブは美術館に集う**』という本で、昨年春、イーアスの本屋さんで画集を見ていて、偶然見つけました。**ニューヨーク近代美術館(通称MOMA)**に早朝ビジネスマンが集まり、ギャラリートークに参加してから入社するそうです。アートを学び、**創造性**を高めているのです。**美術鑑賞は脳を活性化**させ、複雑な現代ビジネスの問題を**解く力**が身につくそうです。
- もう1冊は、**山口周氏**による『**世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?**』という本です。昨年暮れに読みました。これからは、「**直感**」と「**感性**」の時代であり、知的エリートたちはそのために「**美意識**」を鍛えているという内容です。そして、今年の2月、経済産業省の友達にすすめられ、この本の著者である山口周さんのセミナーに参加しました。平日の夜、**東京日比谷でのセミナー**で、キャリアコンサルタントの方が多く、教育関係者はおそらく私一人でした。とても刺激的な勉強会でした。
- 私は、昨年から「**これからはアートの時代である。アートとアクティブ・ラーニングを結びつけると化学反応が起こる!**」と考えていました。そんな時、この2冊の本に出会い、たいへん勇気づけられました。そして、2018年に**AAL(アート・アクティブ・ラーニング)**を提唱し、今、全国に広めています。AALとは、「**右脳**」を使う**アクティブ・ラーニング**です。「**右脳**」は、「**イメージの脳**」「**芸術の脳**」と呼ばれ、**感性**、**企画力**、**創造力**、**空間認識力**などを担当しています。本校では、「**右脳**」を使う授業や学校行事や部活動がたいへん多く実施されていて、とても素晴らしいと思います。

